

C-78 服飾の技術的な考察(1)
—ドレープの技法と効果—

文化女大家政 飯塚 弘子

1. 衣服をつくるために用いられる技法と、それが用いられて現わされた効果との関係についてあきらかにしたいと考え、今回は、服装の上に大きな効果をもたらすドレープの技法と、効果について研究をした。

2. 西洋服装史の文献を手がかりとして、写真、図版や記述から、その展開図を調べ、ドレープの技法を分類し、ドレープの効果について考察をする。

3. ドレープは、用いられる布が、「人体」または、「人体+ファンデーション」に対して、ある程度のゆるみがあり、そのゆるみがある部分では身体に密着し、他の部分でははなれるというところに生じる「布のひだの状態」をさす。身体の一部に密着させるために用いる技法、即ちドレーピングには、a) 布を身体にまきつける。b) 布をひもでしばる。c) 布をぬいぢめる。d) 布にひだをとる。e) 布をフレアー裁ちにする。f) その他がある。そして、用いる布の形は、a) 円形またはその一部をとったもの。b) 長方形またはそれに近い形のものにと分けられ、それらによる効果は、各々ことなる。また、布の分量と、材質の厚さ、薄さ、模様とは、かなり深い関係がある。